

# 2022年度栃木県における 多言語高校進学ガイダンスの開催状況

国際学部附属多文化公共圏センター研究員

田巻 松雄

はじめに

2023年1月22日(日)に「第22回 高校進学・進路ガイダンス主催者交流会 in とちぎ」がオンライン会議で開催された。各地域で多言語高校進学ガイダンスに関わっている関係者の年1回の交流会である。今回、ガイダンス開催状況は、茨城県、栃木県、埼玉県、福岡県の4県に絞って報告された。栃木県報告は、若林秀樹(本学客員准教授)と田巻が協力して準備した。本稿は、そこで報告した内容を一部変更の上掲載するものである。

1 栃木県の地域的特性

外国人住民数と日本語指導を必要とする外国人児童生徒数から栃木県の現状をみておく。

2021年12月31日現在の栃木県内市町の住民基本台帳に基づく外国人住民数は41,670人(対前年比1,158人減)で、県人口に占める割合は2.15%(対前年比0.04ポイント減)である。国籍・地域別、市町別外国人住民数の主な状況等については次のとおりである。

## 1 国籍・地域別外国人住民数(上位順)

1位	ベトナム	7,685人(対前年比 3.3%減)
2位	中国	6,107人(対前年比 6.5%減)
3位	フィリピン	4,786人(対前年比 2.2%減)
4位	ブラジル	3,842人(対前年比 3.9%減)
5位	ペルー	3,078人(対前年比 0.8%減)

## 2 市町別外国人住民数(上位順)

1位	宇都宮市	9,076人(対前年比 2.8%減)
2位	小山市	6,851人(対前年比 4.0%減)
3位	足利市	4,752人(対前年比 3.8%減)
4位	栃木市	4,144人(対前年比 4.7%減)
5位	真岡市	3,419人(対前年比 0.1%減)

## 3 市町別人口に占める在住外国人数の割合(上位順)

1位	真岡市	4.29%(対前年比 0.00ポイント増)
2位	小山市	4.09%(対前年比 0.16ポイント減)
3位	足利市	3.30%(対前年比 0.08ポイント減)
4位	栃木市	2.64%(対前年比 0.11ポイント減)
5位	佐野市	2.43%(対前年比 0.04ポイント減)

2021年5月1日現在、栃木県の公立学校の児童生徒のうち、日本語指導が必要な児童生徒数は小学校582人、中学校124人、高等学校49人、特別支援学校18人、義務教育学校1人で、計774人である。その主要母語別内訳は、スペイン語201人(26.0%)、ポルトガル語115人(14.9%)、フィリピン語86人(11.1%)、中国語48人(6.2%)で、この4言語で全体の58.2%を占める。

## 2 ガイダンス開催状況

コロナ渦の中ではあったが、7回のガイダンスがすべて対面で実施された(表1参照)。宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センターHANDS事業主催が3回、自治体(佐野市、栃木市、真岡市)主催が各1回計3回、民間団体(NPO法人小山国際交流会おいふぁ)主催1回である。主催団体の多様化と地域的な広がりがゆっくりではあるが進行していると言える。

表1 ガイダンス開催内容

名称	開催団体等	期日、会場	参加者数	対応言語
外国語による進学ガイダンス	佐野市教育委員会	6月24日(金) 佐野市文化会館	14人 (生徒+保護者+卒業生)	ポルトガル語、スペイン語、中国語、英語、タガログ語、日本語
外国人の親子向け高校進学ガイダンス	真岡市教育委員会	6月26日(日) 真岡市公民館	17家族 (19人)	スペイン語、ポルトガル語、中国語、ウルドゥー語、タガログ語、英語、シンハラ語
栃木県高等学校進学フェア、多言語進学ガイダンス	下野新聞社 宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センターHANDS事業	9月4日(日) 栃木県 総合文化センター・ ギャラリー棟 (宇都宮市)	2家族 (5人)	フィリピン語、スペイン語、ポルトガル語、中国語
多言語による高校進学ガイダンス	宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センターHANDS事業	9月11日(日) 宇都宮大学 峰キャンパス	5家族 (13人)	ベトナム語、フィリピン語、スペイン語、中国語
栃木県高等学校進学フェア、多言語進学ガイダンス	下野新聞社 宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センターHANDS事業	9月19日(月) とちぎ岩下の 新生姜ホール (栃木市)	4家族 (9人)	フィリピン語、ポルトガル語、中国語、ウルドゥー語
多言語による進学・学校生活ガイダンス	栃木市教育委員会	10月1日(土) キョクトウとちぎ 蔵の街楽習館	8家族	スペイン語、ビサヤ語、ネパール語、ウルドゥー語
外国人親子向け高校進学ガイダンス	NPO法人小山国際交流会おいふぁ	10月10日(月) 小山市城南市民交流 センター・ゆめまち	5家族 (9人)	ウルドゥー語、英語、スペイン語、ヒンドゥー語、中国語

## 3. ガイダンスや高校進学に関する課題等

多言語高校進学ガイダンスについては、主催団体の多様化と地域的な広がりが出てきている中で、関係者による情報共有と意見交換が今後

より重要となっていくと思われる。ガイダンスには、進学への動機づけ、説明、情報提供、相談等いくつかの役割があると思うが、ガイダンス後のフォローを行う体制づくりがより必要に

なっていくのではないかと。特に、日本の中学校に在籍していない学齢超過外国人の受検を支えるには、アドバイスだけでは不十分で、教育委員会に同行するなどの支援行動も必要になるケースもある。

高校入試制度に関して、栃木県の場合、県立全日制課程を受検する外国人生徒のための「海外帰国者・外国人等の入学者に関する特別の措置」(A 海外特別選抜と B 海外特別措置) および県立定時制課程を受検する外国人生徒のための「海外帰国者・外国人等の入学者に関する特別の措置」がある。受検資格は高等学校長の判断で決められること、また、A 海外特別選抜は基本面接であるが高等学校長の判断で学校独自検査や作文が課される場合があること、B 海外特別措置は 3 教科+作文面接試験が実施されるなど、「特別の措置」とはいえ、なかなか厳しい現実がある。今年度 HANDS 事業が実施した調査 (12 回目の調査) でも、受検資格を満たしていると

思われる外国人生徒 15 名のうち措置利用者は 6 名で 4 割に留まっている。B 海外特別措置受検者 1 名は不合格であった。その他の事例としては、2021 年 6 月に日本語能力ほぼゼロの状態で来日した学齢超過のフィリピン人生徒は、2022 年度入試で A 海外特別選抜を認められたが、国・数・英の学力試験を課され、不合格となった事例がある。本人曰く、国語が全く分からなかった。定員内不合格を出すことの是非についても議論が必要と思える。2022 年度入試で「海外帰国者・外国人等の入学者に関する特別の措置」を利用し 40 名定員の定時制課程を受検したペルー人の学齢超過生徒は、受検者 20 名のうち唯一の不合格者となった。

また、「海外帰国者・外国人等の入学者に関する特別の措置」の利用状況と内定状況は、海外帰国者と外国人との合計値で公表されており、この制度の外国人生徒の高校進学における効果が見えにくい状態が続いている。

## 第 22 回 高校進学・進路ガイダンス主催者交流会 in 栃木

1. 日時 2023 年 1 月 22 日 (日) 13 時 00 分から 16 時 30 分まで
2. プログラム内容

### <全体会>

- ①主催者挨拶：実行委員会委員長 田巻松雄 (栃木県ガイダンス主催者交流会準備委員会)
- ②ガイダンスや現在の状況について、茨城県、栃木県、埼玉県、福岡県からの報告
- ③栃木県からの報告
  - ・宇都宮大学国際学部の外国人生徒入試の意義と課題  
発表者：田巻松雄、久富アリネリサ (大学院 1 年)、セキブンカン (学部 3 年)
- ④高校での入学後の支援について
  - ・神奈川県立相模向陽館高校 (多部制定時制) 発表者：黒田協子さん
  - ・大阪府立東淀川高等学校 (全日制普通科) 発表者：酒井清夏さん

### <テーマ別分散会>

全体大会の②～④の発表ごとに 3 つのブレイクアウトルームに分かれ、発表者を交えて意見交換をします。

### <振り返りの全体会>

テーマ別分散会の話し合いを踏まえて、自由に議論します。

### <閉会・事務連絡>

閉会挨拶・事務連絡

主催：栃木県ガイダンス主催者交流会準備委員会  
高校進学・進路ガイダンス主催者交流会  
問合せ先：栃木県ガイダンス主催者交流会準備委員会